

在外日本古美術品保存修復協力事業 (②セ04-14-4/5)

目 的

日本の文化財は欧米を中心に海外でも多く所蔵されている。しかし、これらの保存修復の専門家は海外にほとんどおらず、多くの博物館などで適切な処置に窮している。そこで、海外で所蔵されている掛軸などの紙本絹本文化財および漆工芸品のうち、本格的な修復が必要な作品を一旦日本に運び、修復して返還することを目的としている。また、ワークショップを開催し保存修復に必要な日本の文化財に対する理解の深化、修復技術の移転を行う。

成 果

1. 作品修復

ア) プロツワフ国立博物館（ポーランド）所蔵 五十嵐道甫作 秋野蒔絵硯箱 1合 修復中。

2. 作品調査

ア) ポーランド：日本美術技術博物館マンガ（クラクフ）にて修復候補作品選定（絵画）のための悉皆調査及び状態調査を行った（2015（平成27）年1月12日～23日及び2月1日～7日）。

イ) スペイン：ナバラ博物館及びナバラ古文書館（ナバラ）にて修復候補作品選定（漆工芸品）のための状態調査を行った（2015（平成27）年1月25日～30日）。

ウ) イギリス：ヴィクトリア&アルバート美術館（ロンドン）、チディングストン城（ケント）及びマンチェスター博物館（マンチェスター）にて修復候補作品選定（漆工芸品）のための状態調査を行った（2015（平成27）年3月9日～14日）。

エ) オーストラリア：ヴィクトリア国立美術館（メルボルン）及びオーストラリア国立美術館（キャンベラ）にて修復候補作品選定（絵画）のための状態調査を行った（2015（平成27）年3月14日～21日）。

3. ワークショップ

ア) Workshops on Conservation of Japanese Artworks on Paper and Silk、於 ベルリン国立博物館アジア美術館（ベルリン・ドイツ）：(Workshop 1) “Basic-Japanese paper and silk cultural properties-” 2014（平成26）年12月3日～5日、参加者20名、(Workshop 2) “Advanced-Restoration of Japanese hanging scroll-” 2014（平成26）年12月8日～12日、参加者15名（オブザーバー5名含む）

イ) Workshops on the Conservation and Restoration of Urushi (Japanese Lacquer) Ware、於 ケルン市博物館東洋美術館（ケルン、ドイツ）：(Workshop I) 2014（平成26）年11月15日、参加者11名。(Workshop II) 2014（平成26）年11月18日～21日、参加者6名。(Workshop III) 2014（平成26）年11月25日～28日、参加者6名。

発表

- ・山田祐子、加藤雅人、楠京子「文化財修復材料として使用する除去可能な色材の検討」文化財保存修復学会第36回大会 明治大学 14.6.7-8
- ・山田祐子、加藤雅人「絵画用絹の加工方法と照明角度による見え方の相違について」日本色彩学会第2回大会 静岡市清水文化会館マリナート 14.11.14-15

刊行物

- ・『在外日本古美術品保存修復協力事業 出山釈迦図』東京文化財研究所 15.3
- ・『在外日本古美術品保存修復協力事業 山水図』東京文化財研究所 15.3
- ・『在外日本古美術品保存修復協力事業 寒山拾得図』東京文化財研究所 15.3
- ・『在外日本古美術品保存修復協力事業 靈照女図』東京文化財研究所 15.3

②国際協力・交流等 Area11

研究組織

○川野邊渉、加藤雅人、江村知子、山下好彦、楠京子、山田祐子、川端冴子、山之上理加、嶋原由美、木原山奈々、北川瑞季（以上、文化遺産国際協力センター）、早川典子（保存修復科学センター）、田中淳、塩谷純（以上、企画情報部）、今城裕香、深井啓、鈴木絢香（以上、研究支援推進部）